

令和 6 年度使用

小学校用教科用図書研究資料（総評）

【道 徳】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	(1) 道徳科の目標を達成するために、例えば、高学年では「よりよい学校生活、集団生活の充実」「国際理解、国際親善」等に関する教材を複数配置するなど、発達の段階に応じて指導できるような構成・配列の工夫が見られる。	5 年 p2, 3 5 年 p182, 183
	(2) 主体的に自分との関わりで考えさせるために、内容や指導の充実については、各学年の巻末の「考えるためのツール」で、自分の考えを可視化し、話し合う活動を促すツールを例示し、付録で「心情円」などを掲載することができるような工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えさせるために、「問題を見つけて考えよう」や「演じて考えよう」など、道徳的行為に関する体験的な学習を設定し、積極的な議論を促したり、児童の多様な考えを引き出したりするなどの工夫が見られる。	5 年 p184 5 年 p53 5 年 p148 5 年 p125
	(3) 利便性の工夫については、教材の見出しに 4 つの視点を表すイメージのマークを示すことで、学習する内容をとらえやすくし、教材の冒頭は主題と教材名だけを示し、先入観なく教材を読むことができるような工夫が見られる。	5 年 p4, 5 5 年 p10
	(4) 自らを振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができるように、教材末の「考えよう」では、教材で考えさせる発問に「◎」自己を見つめさせる発問には「○」を付して掲載しており、区別を明確にして扱えるような工夫が見られる。また、地域社会の一員としての自覚を深め、よりよい集団にしていこうとする主体的な態度を育てるために、地域でのボランティア活動などの日常生活や身近な話題を扱うことで、実践への意欲につなげられるような工夫が見られる。	5 年 p41 5 年 p166 5 年 p50～53

17 教育出版	(1) 道徳科の目標を達成するために、全学年で人物や地域に焦点を当てた「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」等に関する補充教材を設けることで、児童の実態を考慮した指導につながるような構成・配列の工夫が見られる。	5 年 目次
	(2) 主体的に自分との関わりで考えさせるために、内容や指導の充実については、動作化や役割演技、「やってみよう」などの体験的な学びを設定するなど、自分なりの問いをもたせたり、実際の行動と結び付けながら価値を学ばせたりすることができるような工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えさせるために、教材末の「考えよう」「深めよう」「つながよう」では、様々な問いが設けられており、考えを深めさせたり、多様な考えを引き出すきっかけにしたりすることなどの工夫が見られる。	5 年 p16 5 年 p80 5 年 p93 5 年 p11
	(3) 利便性の工夫については、教材の題材の下にキャラクターによる吹き出しの言葉で、ねらいとする道徳的価値や教材内容への導入を図り、児童の興味・関心や問題意識を高めることができるような工夫が見られる。	5 年 p8
	(4) 自らを振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができるように、巻頭の「こんな学び方をするよ」で学習したことが生活につながることを示し、巻末では、学期ごとに学びを振り返り、自己の成長が分かるような工夫が見られる。また、地域社会の一員としての自覚を深め、よりよい集団にしていこうとする主体的な態度を育てるために、学習内容一覧に S D G s 17 の目標との関連を掲載しており、学習を通して考えを深め、実践への意欲につなげられるような工夫が見られる。	5 年 p 4 5 年 p176

38 光村図書 出版	(1) 道徳科の目標を達成するために、全学年で「生命の尊さ」に関する教材を3つずつ配置し、継続して自らを大切にすることを考えられるようにするなど、児童の発達の段階に応じて指導できるような構成・配列の工夫が見られる。	5年p2, 3 5年p192
	(2) 主体的に自分との関わりで考えさせるために、内容や指導の充実については、キャラクターによる問いや役割演技、3学年以上における思考ツールを活用するなどし、意欲的に学習に取り組んだり、自分の考えを広げたり整理したりすることができるような工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えさせるために、教材末にある学習の手引きでは、段階的に考えを深めていく発問や考えたことを問い直す発問を提示するなど、児童に多様な価値観で話し合いをさせるなどの工夫が見られる。	5年p16 5年p47 5年p188 5年p76 5年p19 5年p23
	(3) 利便性の工夫については、「考えよう・話し合おう」において、学習のテーマや問いを示したり、「つなげよう」で考えたことを問い直させたりすることで、児童が考えたことを日常生活で生かすことができるような工夫が見られる。	5年p114
	(4) 自らを振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができるように、キャラクターが、吹き出しで、学んだことを日常や他教科につなげたり、「そうできない自分の在り方」を見つめさせたりするような工夫が見られる。また、地域社会の一員としての自覚を深め、よりよい集団にしていこうとする主体的な態度を育てるために、現代的な課題を扱った教材とコラムを組み合わせた「ユニット」を学期ごとに設け、児童がより深く考え、実践への意欲につながられるような工夫が見られる。	5年p127, 128 5年p2, 3 5年p133～147 5年p166

116 日本文教出版	(1) 道徳科の目標を達成するために、例えば、高学年で「友情、信頼」「国際理解、国際親善」等の補助教材（ふろく）を設けるなど、児童の実態を考慮し、指導の充実につなげることができるような構成・配列の工夫が見られる。	5 年 目次 5 年 p170～181
	(2) 主体的に自分との関わりで考えさせることができるように、巻頭に「道徳の学び方」を設け、学習の仕方を写真や動画を用いて理解させたり、教材の文頭にある教材全体への見通しをもたせる吹き出しで、問題意識を高めさせたりすることができるような工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えさせることができるように、別冊「道徳ノート」を活用して対話を促したり、教材と関連した内容を取り上げた「心のベンチ」を設定し、自分の考えを広げさせたり、多様な価値観に触れさせたりすることができるような工夫が見られる。	5 年 p4, 5 5 年 p24 5 年 p18 5 年 p80
	(3) 利便性の工夫については、教材の文頭に主な登場人物の紹介や内容に沿ったリード文を設けることで、児童の教材内容についての理解を助け、内容をイメージしながら考えたり話し合ったりすることができるような工夫が見られる。	5 年 p20
	(4) 自らを振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができるように、「見つめよう・生かそう」で学んだことを自分自身のこれからに生かしていくために、児童に問いかけ、自己を見つめ、振り返らせるような工夫が見られる。また、地域社会の一員としての自覚を深め、よりよい集団にしていこうとする主体的な態度を育てるために、現代的・社会的な課題をさまざまな人と支え合って生きていくことの大切さを学ぶ視点から扱い、実践への意欲につなげられるような工夫が見られる。	5 年 p17 5 年 p112, 113 5 年 p152, 153

208 光文書院	(1) 道徳科の目標を達成するために、例えば、高学年では「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」などに関する教材を複数配置するなど、児童の発達の段階に応じた指導ができるような構成・配列の工夫が見られる。	5 年目次 5 年p188
	(2) 主体的に自分との関わりで考えさせるために、内容や指導の充実については、冒頭の問いの設定や教材末に児童の思考に寄り添う問いを提示するなど、自分のこととして考えさせたり、「どうして」「なぜ」と問い続けさせたりすることができるような工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えさせるために、教材に関連した内容を取り上げた「ひろげよう」を設定し、自分の考えを視覚化したり、学習した内容を発達の段階に応じてまとめたりできる思考ツールを掲載するなどの工夫が見られる。	5 年p10～13 5 年p74 5 年p29, 30 5 年p6
	(3) 利便性の工夫については、成長する鳥のアイコンで導入・展開・発展の発問を提示し、児童が自問自答しながら主体的に深く考えたり、考えを広げたりしながら、多様な見方・考え方ができるような工夫が見られる。	5 年p13
	(4) 自らを振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができるように、巻頭で、授業で学習したことが生活に繋がるという意識付けをしたり、考えを深め広げるための対話や思考のツールを提示したりするような工夫が見られる。また、地域社会の一員としての自覚を深め、よりよい集団にしていこうとする主体的な態度を育てるために、各教材末「ひろげよう」で家庭地域の人たちとの関わりをもたせた活動等を提示し、実践への意欲につなげられるような工夫が見られる。	5 年p 6 ～ 8 5 年p25 5 年p89 5 年p141

224 Gakken	(1) 道徳科の目標を達成するために、例えば、第5学年では、年度の前半に「自分自身に関すること」、後半に「集団や社会に関すること」の教材を多く配置するなど、児童の発達段階に応じて指導できるような構成・配列の工夫が見られる。	5年p4, 5
	(2) 主体的に自分との関わりで考えさせるために、内容や指導の充実については、よりよく生きるための「心の4つのとびら」の紹介、「自分が～」「あなたは～」と児童の思考に寄り添う発問を提示し、自分のこととして考えさせることができるような工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えさせるために、学んだことをもとに思考を広げる「深めよう」や学習したことをもとに、自分にながて考えたり話題を広げたりする「心のパスポート」を活用するなどの工夫が見られる。	5年p8, 9 5年p75 5年p23 5年p67 5年p43
	(3) 利便性の工夫については、教材の題名の上に4つの視点をマークと色で示したり、題名の下に教材文を読みたくなるようなフレーズを掲載したりし、児童が主体的に学習することができるような工夫が見られる。	5年p97 5年p6 5年p14
	(4) 自らを振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができるように、教材文の前に示されたフレーズで児童の関心を高め、特設ページの「心のパスポート」で自らの課題を見つけることができるような工夫が見られる。また、地域社会の一員としての自覚を深め、よりよい集団にしていこうとする主体的な態度を育てるために、地域性のあるテーマを扱い、自分の地域の偉人や行事の由来などに目を向けさせることで実践への意欲につながられるような工夫がみられる。	5年p43 5年p97 5年p56